

A B r i e f N o t e N o . 2 2 3

発行日：2013年10月21日

アフリカ南部の旅（その1）～ケープタウンと喜望峰～

千葉県八千代市 松尾 昌泰

2013年7月上旬に、アフリカの南部に行ってきた。南アフリカ共和国のケープタウンや喜望峰、そして、ジンバブエとザンビアの国境にあるビクトリアの滝とボツワナのサファリーなどでした。今回は南アフリカ共和国のケープタウンと喜望峰を中心に紹介する。

南アフリカ共和国（南アフリカ）はアフリカの最南端の国で、とにかく遠い。成田からケープタウンまでは、香港経由、ヨハネスブルグ経由で、飛行時間だけで約20時間、乗継やその待ち時間を含め、集合時間なども考慮すると、約30時間弱だった。

（1）はじめに

「アフリカは暑い」と思っていたが、そうではなかった。ケープタウンの7月の朝夕は平均7℃位であり、この街にある「テーブルマウンテン」の上では、防寒具替りに雨具を着たが、風もあり非常に寒かった。

出発前には、南アフリカはワールドカップが開催された国であり犯罪は多くはないと聞いていた。（ワールドカップは犯罪が多い国では開催候補地にもならない。）

しかし、実際には、銃を持った集団の犯罪が発生しており、男4～5人で行動していても襲われる事件が多発している。だから、ツアーではほとんど自由行動はなく、ホテルからの外出もできなかった。

ケープタウンの一戸建ての宅地には、背丈を超える高さの塀が作られ、その上に更に有刺鉄線などが張り巡らされていた。自分の家は自分で守るのが原則だが、盗難などの事件では警察は来てくれないそうだ。

ワールドカップの会場は、時には音楽会などにも利用されてはいるが、収容人数が多すぎて、不要の長物となっており、困っているとのことだった。

南アフリカは、かつてはアパルトヘイト（有色人種に対する人種差別、1994年まで続いた政策）で知られていたが、今ではアフリカ最大の経済大国となっている。

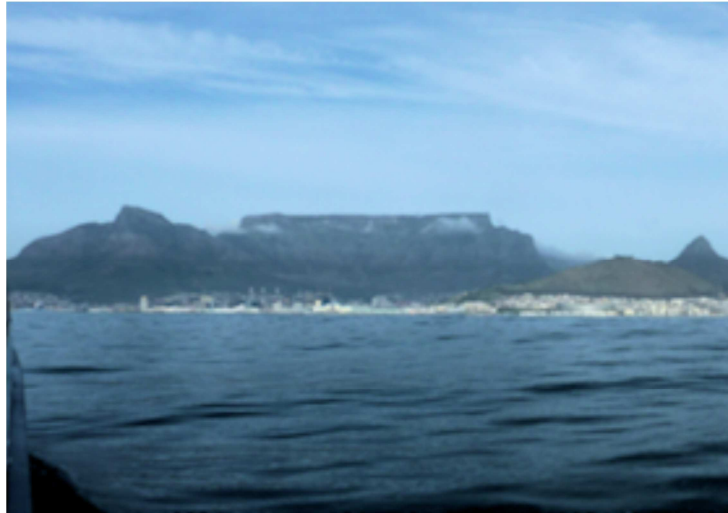
（2）ケープタウンとテーブルマウンテン



ケープタウンは、首都機能の立法府が置かれている大きな都市である。(南アフリカは首都機能を分散させており、行政府はプレトリアに、立法府はケープタウンに、司法府はブルームフォンテンに置いている。)

このケープタウンを拠点に、テーブルマウンテン、喜望峰、ロベン島、ペンギンやアザラシの生息地、そして南アフリカ固有種や絶滅危惧種など約 7,000 種の植物がある「カーステンボッシュ植物公園」に出かけた。

「テーブルマウンテン」は海拔 1087m でテーブル状の台地になっており、その姿は街のどこからで見える。次の写真はテーブルマウンテンの全景で、ネルソン・マンディラが収容されていたロベン島から写したものである。



テーブルマウンテンの山頂へは、ロープウェーで約 10 分で上ることができ、南アフリカで人気の高い観光地になっている。ロープウェーは 65 人乗りで、回転しながら上っていくので、360 度の景色を見ることができた。



(3) マンディラが収容されていたロベン島 (歴史的世界遺産)

ロベン島は、ケープタウンからフェリーで 30 分の所にあり、かつての刑務所はロベン島博物館になっており、元政治犯が案内してくれた。

反アパルトヘイト運動の活動家ネルソン・マンデラ達が政治犯として収容された刑務所で、「苦闘の大学」とも呼ばれ、ここを出た者たちは南アフリカを民主主義へと

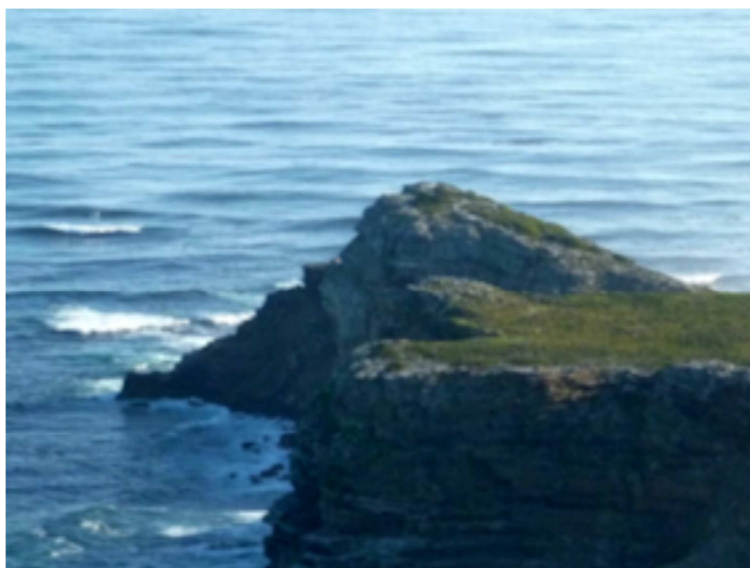
導いたと云われている。



(4) 喜望峰

喜望峰はケープタウンから 50km 南へ延びたケープ半島の突端にある。喜望峰がアフリカ大陸の最南端と言われることがあるが、実際には東南東へ約 150km 離れている岬（アガラス岬）が最南端である。

1488 年ポルトガル人のディアスの到達以降、航海者たちに「あらしの岬」の名で恐れられていたが、ポルトガル王がインド航路を開拓した際に「喜望岬」と改名したといわれている。この近くのケープポイントからは、喜望峰を上から見下ろす事ができ、全景を写真に撮った。ここには灯台があり大西洋とインド洋の分岐点になっている。



(5) アフリカペンギンたち

アフリカペンギンは、ケープタウンのボルダー海岸にコロニーをつくっており、南アフリカ国立公園によって保護と管理がされている。海岸に作られた遊歩道から、よちよち歩きのかわいい姿を間近に見ることができた。この海岸は、世界で最も近くでアフリカペンギンを見ることができる場所だそうだ。

もともとこの湾は漁業が禁止されていたので、餌が豊富で繁殖にも適した場所としてペンギンが定着したが、その後、海鳥に卵を取られたり、人間の開発や気候変動などで、ペンギンの雛の数が激減し、今では絶滅危惧種に指定されている。



(6) 南アフリカのおいたち

せっかくの南アフリカ旅行だったので、少しだけ歴史の大筋を勉強した。

ヨーロッパの大航海時代の 1488 年にポルトガル人バルトロメウ・ディアスが喜望峰に到達した。その後 約 150 年後の 1652 年にオランダの会社が、喜望峰を航海上の重要中継基地としたことにより、多くのオランダ人が移民しケープタウン植民地が出来あがった。

更に約 150 年後、金やダイヤモンドの鉱脈を狙ったイギリス人が押し寄せ、ケープタウンを占領した。19 世紀の初頭に植民地は、イギリス・オランダ協定によりイギリス領となった。

その後、イギリスの自治領となり、1931 年のウエストミンスター憲章で主権国家となり、1948 年に政権を取った国民党によりアパルトヘイト政策（人種隔離政策）が生まれた。

人種平等を求める黒人系のアフリカ民族会議によるゲリラ戦が続き、国際的にも批判され経済制裁を受け、内外で反アパルトヘイト運動が高まり、1990 年代に、やっとアパルトヘイト関連法が廃止された。

その後 1994 年にネルソン・マンデラが大統領に就任した。

アパルトヘイトが撤廃されても、アパルトヘイトにより教育を受ける機会がなかった人たちには、たとえ職に就けても不安定な業種にしか就けなかった。白人・黒人間の失業率格差は縮小しつつあるが、犯罪率も高く、多くの過激派組織も活動している。周辺国からの移民が急増し、国内の黒人の失業率は大きくなり、更に職に就けない状態になっている。また、黒人への優遇政策により、白人の失業者も増えているという。

今回は、ビクトリアの滝とサファリーの旅の紹介をしたい。

ビクトリアの滝は、ジンバブエとザンビアの国境にあるため、両方の国側からと、上空から全景を見た。サファリーは、ボツワナのチョベ国立公園でのゲームドライブ（サファリードライブ）とザンベジ川のクルーズである。

以上